

令和 5 年 2 月 2 7 日
下水道広報プラットフォーム
G K P 広報大賞チーム

GKP 広報大賞の取扱いについて（案）

1 目的

GKP 広報大賞（以下、広報大賞）の業務について整理を行う

2 背景

- ・ GKP 広報大賞の担い手不足
- ・ 事務局（OS）とプロジェクト担当者（アプリ）の差別化の未実施

3 方法

➤ GKP 広報大賞については、早急に主担当者の公募を企画運営委員会内で行う

- ① 希望者が現れない場合は、GKP 広報大賞を継続することが妥当か否か、令和 5 年度内に②の方法を含めて検討する。
- ② 上記の希望者が現れなかった場合、GKP の財政状況を踏まえつつ、業務委託の可能性を検討する。この場合、財源確保策として、スポンサー募集（ネーミングライツなど）も視野に入れる。

➤ 広報大賞については、その他のプロジェクトと取扱は同様とする

事務局（中山氏も含む）は個別のプロジェクトに対応しない（参照：GKP のあり方より）

4 予算等

GKP 事業費より捻出

5 その他

将来性の検討に際しては、循環のみち下水道賞（国交省主催）との棲み分けを整理することを必須とする。

以上